

2019年7月実績概要(メモ)

(2019. 8. 22)

定修規模の縮小から、日数増と併せて前月対比では大幅増産品目が多めとなる。

1. 生産動向

イ) エチレン 516,900トン

前月比 +4.4% (+22,000トン)

前年同月比 +4.2% (+20,800トン)

生産増減に係る諸要因	<前月比>	<前年同月比>
日数増減	+ 3.3 %	-
定修要因等	+ 1.4 %	+ 1.4 %
能力増減	-	+ 0.1 %
稼働率変動	▲ 0.3 %	+ 2.7 %
生産増減率	+ 4.4 %	+ 4.2 %

稼働プラントの実質稼働率試算：前月95.3%→当月95.1%←前年同月92.8%
 定修プラント：前月2社2プラント→当月1社1プラント←前年同月3社3プラント

ロ) 主な石油化学製品

前月比では、日数の増加とともに定修規模の縮小等からHD、PP、PS、SM、塩ビモノマー、MMAモノマー、EO、EG、AN、ベンゼンなどの14品目がプラス。SBR、BR、トルエンの3品目は主に定修規模差からマイナスとなった。

前年比では、主に定修規模差や稼働率要因からPP、SM、EG、ANなどの6品目がプラス。HD、PS、SBR、BR、ベンゼン、トルエンなどの11品目はマイナスとなった。

2. 樹脂の生産・出荷状況(LD、HD、PP、PS)

イ) 生産

前月比では、日数増とともに定修規模の縮小からHD、PP、PSでは大幅な伸びとなり、LDと併せて4樹脂揃ってプラスとなった。

前年比では、定修規模の差と稼働率要因からLDは微増、PPは定修規模の縮小からプラスとなった。HD、PSは定修規模の増加からマイナスとなった。

ロ) 国内出荷

前月対しては、営業日数の増加に併せてLD、HDとも各出荷分野で満遍ない増加が見られ、いずれもプラスとなった。これに対しPPでは、射出成形分野の出荷が前月並みに留まったことやフィルム分野等の出荷が減少しマイナス、PSは主に雑貨・産業分野の出荷減少からマイナスとなった。

前年比では、PEはフィルム分野の出荷が前年割れの状態にあるものの、LDではラミネート分野、HDでは中空成形分野を中心とした出荷増加からプラス乃至前年並みとなった。PPは前年の出荷が低調であったが、本年は射出成形分野、フィルム分野等の出荷がこれを上回りプラスとなった。PSは包装分野等の出荷減少からマイナスとなった。

ハ) 輸出

定修規模の縮小に伴う供給面での回復もあり、前月比ではLD、HD、PP、PSで増加しプラスとなった。

前年比では、前年の輸出水準が低かったLDをはじめ、当月、特に輸出量が増加したPSでプラス。HD、PPはマイナスとなった。

ニ) 在庫

在庫量は、LD、HD、PPで減少し、PSは若干増加となった。在庫率(季節調整済)は前月に対してLD、HDは低下、PP、PSは前月並みとなった。在庫水準としては、HDはやや高め的水準、PPはタイト傾向継続、LD、PSはほぼ適正水準となっている。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率(単位:ヶ月)	
		6月末	7月末
LD	▲ 8,400	3.6	3.2
HD	▲ 7,700	3.6	3.4
PP	▲ 15,600	2.8	2.8
PS	+ 2,400	1.5	1.5

以上